

## 資料室だより 117

### **Tropaire sequentiare prosaire prosulaire de Moissac**

par Marie-Noël Colette

フランスの中世音楽学者コレット氏によるグレゴリオ聖歌ファクシミリエディションのシリーズ *Bibliothèque nationale de France, n.a.l.1871* 写本のファクシミリです。時代は11世紀、アキアニア・ネウマで記譜されたトロープスです。興味深いのは *index analytique* です。トロープスの始まり *texte du trope: incipit* と、おわり *texte du trope: explicit*、そしてトロープスがつけられた元のテキスト *texte du chant de base* が記載され、典礼のどの言葉にどういう付加がされたのかがインデックスで示されます。今の典礼ではトロープスは使用されませんが、典礼史的背景の研究に役立ちます。

### **Bamberg, Staatsbibliothek, LIT, 115**

*Corpus Mensurabilis Musicae, 75 巻 Compositions of the Bamberg Manuscript*

通称バンベルク写本と言われているマニュスクリプトのモダン・エディションです。これは初期ポリフォニーによる13世紀の宗教的楽曲集の最も豊かな写本集の一つです。同時代のモンペリエ写本は数においてはこれの3倍以上ありますがバンベルク写本の主要な部分はゴシック様式の二重モテトゥスの発展の頂点を示しています。つまりフランス語、ラテン語を同時に歌うポリテキスト様式です。

### **Bach, J.S.: Orgelbüchlein, BWV 599-644, Faksimile nach dem Autograph in der Staatsbibliothek zu Berlin**

ベルリンの国立図書館が所蔵するバッハのオルゲルビュッヒラインの自筆ファクシミリです。Sven Hiemkeによる詳しい解説付きです。このファクシミリエディションで興味深いのは楽譜集全体のなかで実際に記譜されているのは1/3にも満たないということです。つまり、五線譜は空白のまま、コラールのタイトルだけが書かれたページも含めてファクシミリエディションとして提供されていますので、楽譜に定着しなかったがバッハが何を意図していたか、どのタイトルのコラールをどのくらいの長さで書こうとしていたか、どのような配列が構想されていたかということも含めてこの作品に学問的アプローチができます。

上記の3冊はすべて第29期本科卒業生の寄付金により購入しました。

(杉本ゆり 記)